

## コムスジ

リンゴ廃材を薪割りしていて、汗まみれで脱いだ私の作業手袋に浸み込んだ汗をコムスジが吸いに来ました。画像の記録は2010年7月30日13時52分でした。場所は澄川森林のテント小屋前の腰掛長板の上でした。

コムスジは九州での昆虫少年時代からの馴染みでした。タテハチョウ科とされていますが、飛び方にはっきりした特徴がありまして、おっとりした感じなのです。羽ばたきを時々止めて、すーい、すーいとグライダー式に滑空するので、捕虫網に捉えやすかったのです。



黒地に白の模様が横に幅違いに三筋ついていることでの命名ですが、模様のパターンがそっくりな仲間がいます。大きい順にオオミスジ>ミスジチョウ>コムスジとなります。ですから頭にコ(小)がつけてあります。大きさ(開長)は41~48mmです。表地は黒色ですが、裏地は明るい茶色でして白模様がそのまま裏に抜けております。



発生は5月~7月。分布は極めて広くwikipediaによりますと、シベリアの亜寒帯から中央アジア、インドシナ半島および台湾。日本では屋久島以北、九州、四国、本州、北海道とあります。

幼虫の食草はクズ、ニセアカシヤ、フジ、ハギなどのマメ科の植物です。澄川森林で鋭意退治している外来種のニセアカシヤと蔓植物で樹冠を覆いつくして枯死に至らせるクズが食草とは、この蝶が好きな私としては複雑な心境になります。

下の3つの画像は左から孵化直後の一令幼虫から中間、右が終齢幼虫です。終齢までに脱皮する毎に姿がクズの枯れ葉の切れ端のように見える擬態を呈するように変化してゆきます。

